



白いプロペラ  
ーティカカズラー

5月の終わりごろ、遊歩道を歩いていると、樹木に絡み付いたプロペラのような形の白い花を見かけます。キョウチクトウ科のティカカズラ(別名マサキノカズラ)です。常緑のつる性植物のティカカズラは、雑木林や湿った岩場などにつるを伸ばして成長します。光沢のある深緑色の葉は、冬でも枯れずに美しい姿を保つため、庭木や生け垣として好まれていきます。直径2〜3センチの純白の花は、5〜7輪ずつ咲き、終わりが近づくと淡い黄色に変わります。花卉が深く5つに裂け、プロ

ペラのように少しねじれて咲く姿が個性的で目を引きます。「ティカカズラ」という名前は、鎌倉時代の歌人・藤原定家に由来します。愛する人と思う定家の執念が「かずら(つる草)」となり、彼女の墓に絡み付いたという伝説から名付けられました。繊細な形の花を咲かせながら、つるを伸ばし着実に成長する姿と、この伝説が結び付き、「永遠の愛」や「誠実」、「優雅」などの花言葉があります。遊歩道の脇でたおやかに、力強く咲く白い花を見つけてください。

陶史の森からのご案内

バードウォッチング (自由参加)

5月24日(日)、6月28日(日)

午前9時~11時

※集合場所は林泉の池堤防です。

ミツバチ教室 (要申込 定員40家族)

6月14日(日) 午前9時~11時

持ち物: 白色の服装、帽子

※集合場所はウッディドーム

トキハク  
プロジェクト

新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館  
(☎55-1245)

第25回 みんなで展示を作るといふこと



美濃陶磁歴史館の出張展示として、美濃焼伝統産業会館で開催中の「美濃焼と土岐のものごと」展。新博物館(令和11年度開館予定)の常設展示のダイジェスト版として、美濃焼1400年の歴史を軸に、各時代の美濃焼と人々の暮らしをひも付けた展示を試みています。

本展は、当館の4人の学芸員が分担して作り上げたものです。それぞれが担当した時代の出来事を限られた空間に凝縮する作業は、困難を極めました。例えば、現代の美濃焼と土岐を取り上げたとき、幅約4メートルの空間で、戦後から現在までの約80年の当地の姿を紹介しなければなりません。ほとんどの出来事を紹介できないもどかしさがある一方で、展示を作り上げる

わくわく感もあります。今回取り上げたトピックの一つとして、高度経済成長期の美濃焼産業の隆盛と、それを支えた集団就職者たちを紹介しました。地元の方からお聞きできた経歴談は、貴重な地域資料として本展を形づくっています。今回の展示制作を通じて、地域の皆さんの声によって展示ができていくのだと再認識しました。

展示会場では、新博物館に向けてご意見、ご感想、ご自身の思い出などを募っています。お越しいただいた際は、アンケートにご協力ください。



熊本県から山春陶料(妻木町)に集団就職した若者たち 昭和34年(友永建雄氏提供)